

学園NEWS!

老人クラブ連合会×1年生  
手作りの凧で凧揚げ体験

1月26日、いいたて希望の里学園の1年生と飯館村老人クラブによる、むかし遊びと凧制作が行われました。

児童達は、竹とんぼやゴム鉄砲などの使い方を老人クラブの方から教わり、楽しく遊びました。その後、凧にカラフルな絵を描き、竹串と紐、ビニールの足を付け、個性あふれる凧が完成。校庭に出るのを待ちきれず児童達が走り出すと、凧はホールの中で、見事に舞い上がりました。校庭に移動後も、凧に乗った凧は空高く上がりました。



優しく教え、見守っていただいた老人クラブの皆さん。貴重な体験をありがとうございました。

飯館村森林組合から学童保育へ  
木製ボードゲームを寄贈

2月6日、飯館村森林組合、福島県森林組合連合会、農林中央金庫福島支店から、飯館村学童保育「つくしんぼハウス」へ、木製の「森林経営ボードゲーム」が寄贈されました。このボードゲームは、飯館村森林組合の長正景子さん(草野)が中心となり考案、田村森林組合(田村市)が加工を行い、炭素化した木材が使われています。児童達はさっそく遊び方を教わりながら、買った木を大きくしたり、売ったりと楽しんでいました。



「人生ゲーム」のように植林・育林・伐採・販売までの一連の流れを、楽しく学ぶことができます。

いいたて希望の里学園から  
能登半島地震の被災地へ義援金

いいたて希望の里学園の全校児童生徒、同校PTA会員らが、それぞれの活動において能登半島地震への災害義援金を募り、寄せられた浄財10万9,212円を、2月7日に飯館村社会福祉協議会に手渡しました。児童生徒はこれまでも、「支援を受ける側から、支援を返す側になろう」と募金活動を企画し、被災地に支援の想いを届けてきました。

飯館村社会福祉協議会に託した募金は、日本赤十字社を通して能登半島地震の被災地に届けられます。



児童生徒会長の大島輝琉さん(8年生)が「被災地の方々へ大切に届けてください」と想いを伝えました。

本田先生に聴く

うた  
こころとからだといのちの詩

第10回 自殺予防と子ども・女性・高齢者の健康

いいたてクリニック 本田 徹 先生



世界的に信頼され権威ある医学雑誌ランセットは、2017年に国連加盟188か国のSDGs(持続可能な開発目標)の達成度を、保健指標の面から比較・検討した結果を公表しています。それによると、日本は先進国の中では「中の下」の21位に甘んじています。日本が振るわない原因の第一は災害の多さ(自然災害及び原発事故のような人災の要素を含むもの)、そして自殺率の高さ、性的なものを含む子どもの虐待、喫煙率の高さ(公共施設や飲食店での禁煙規制の不徹底)が挙げられています。この結果と背景から、日本の国の今後の課題も見えてきます。

新型コロナウイルスの影響もあり、ピークだった平成15年の3万人超から、いったんは年間2万人以下に下がっていた日本人の自殺者数は再び上昇に転じ、令和4年には、2万1800人台まで上昇。とくに懸念されるのは、女性や子どもの自殺者数が増加してきていることです。福島県も昨年、人口10万人に対する自殺者数が全国でワースト7位という、かんばしくない数字となっています。

生き続けることを諦め自死を選んでしまう、子どもから女性・高齢者にまで及ぶ広範な人たちの苦しみの背景には、「社会的健康決定要因」と呼ばれる問題が横たわっています。学校や家庭や職場でのいじめ問題、女性に対する法的・社会的な、見えづらいことも含めた差別、孤立し支援の手が及ばなくなっている高齢者。こうした課題に私たち一人ひとりが、共感と理解をもつて協力し取り組んでいくことで、日本の福祉やSDGsも前に進むのだと思います。

3月は自殺対策強化月間です

3月は進学や就職、転勤など環境変化が多い時期であり、心身の負担が高まる時期でもあります。自分自身や身近な人の心の状態に目を向けてみてください。

不安や悩みを抱えたときは、誰かに話をするだけで心が軽くなったり、違った道が見えてくることもあります。まずはご相談ください。



相談窓口

飯館村のこころ・からだの相談窓口

健康福祉課健康係 ☎0244-42-1637

まもろうよ こころ (厚生労働省)

24時間電話での相談窓口、電話では相談しづらい方にはLINE等SNSでの相談等、悩みや年代に合わせたさまざまな形での相談窓口があります。  
<https://www.mhlw.go.jp/mamorouyokokoro/>



◆ 同封のパンフレット「ひとりで悩んでいませんか」には各種相談窓口が掲載されています。